

地域ニュース

ニホンメダカ

1994年

前橋市鶴光路町で発見

保護飼育27年間

継続

「前橋にもいたよー!」

野メダカを育てる会が発見

群馬よみうり新聞
1994年6月4日(木)

まも まえ ばし

「守ろう 前橋のメダカ」

小川や池、沼に住む 自然の生き物 野生のメダカ (クロメダカ)

「前橋市児童文化センター」「野メダカを育てる会」

前橋のメダカ



1994年(平成6年)、27年前に前橋市鶴光路町のお堀で自然に繁殖している野生のメダカを発見して以来、前橋市児童文化センターで保護して飼育を継続しています。他の場所では発見できませんでした。その後、2003年に野生のメダカは絶滅危惧種(ぜつめつきぐしゅ)に指定されています。保護をして飼育することが必要になっています。

※写真上 メダカのすむ水田 (前橋市児童文化センター)

「前橋の野生メダカ」を育ててください

自然環境は年々悪化しています。水路や河川は3面コンクリートでおおわれて、野生のメダカのすむ環境はなくなっています。前橋市内でも自然の状態では、野生メダカがすむ場所が見当たりません。今は、児童文化センター内に人工的に造った川(むつみ川)と田んぼ(メダカのすむ田んぼ)で保護しています。多くの方に育てていただきメダカの絶滅を防ぐとともに、環境保護に関心をもってもらえればと考えています。



前橋の「野生メダカ」が増えすぎたときや、飼えなくなった場合には、必ず「むつみ川」にもどしましょう

※放流は禁止

前橋市内であっても近くの川や池、沼などには絶対に放流しないでください。もどす場合は、前橋市児童文化センターに必ず連絡してください。



※写真下 むつみ川 (前橋市児童文化センター)

前橋の「野生メダカ」は鑑賞用のメダカとぜったいに混ぜないで育てましょう

前橋地域の野生のメダカと、他の地域にすむメダカとを細かく遺伝子的に調べると、少しだけ違いがあるといわれています。その地域、地域にすむメダカとの違いを大切にしています。たとえば、前橋の野生メダカと館林にすむメダカでも違いがあります。日本にすむニホンメダカには、大きく北日本集団と南日本集団に分けられます。前橋の野生メダカは南日本集団に属しています。さらに細かく遺伝子レベルで分ける場合もあります。遺伝子レベルでの相違を考えて、その地域その環境にすんでいるメダカを大切にしています。日本にすむ野生のメダカは、体の色がクロが特徴です。ヒメメダカや突然変異で生まれた色の鮮やかなメダカ、近年は遺伝子操作による品種もありますので、観賞用と雑種にならないよう別々の水槽などで分けて育てましょう。

「野メダカを育てる会」会員募集中

※会規約があります。希望者は前橋市児童文化センター事務局まで

私たちは、野メダカを育て、前橋の池や沼、小川に昔のように豊かな自然の中に野メダカを戻したいと考えて平成5年5月に「野メダカを育てる会」をつくりました。遺伝子レベルでの保護を考慮し生息場所ごとに飼育しています。また、メダカ飼育を希望する市民や小中学校に配布をしています。26年間継続して活動しています。メダカの保護は小川や自然の生態系を考慮することや環境教育への関心を高める機会につながっていると活動しています。

「野メダカを育てる会」記念バッチ

「野メダカを育てる会」25周年記念で2種類つくりました

希望者に販売しています



前橋メダカの育て方



前橋メダカって？

自然のメダカを見たことがありますか？自然のメダカは、「めだかの学校」の歌のように小川にすんでいる黒いかわいい魚です。このメダカ、昔は前橋でもたくさん見られたそうです。でも、今は自然の中にすんでいるメダカはほとんどいません。前橋の川からメダカがいなくなってしまったのです。

なぜいなくなったの？

昔は田んぼの水路にたくさんすんでいました。でも人々の生活の変化や水の汚れのため、いつしか見られなくなってしまいました。

もういなくなったと思われていた前橋のメダカですが、平成6年に下川淵地区で生き残っているのが発見されました。児童文化センターでは、メダカを愛する人々が集まってつくった「野メダカを育てる会」のメンバーの方とともに、このメダカを大切に育てています。

前橋メダカを飼おう！

用意するもの

- ①水そう…小さなものは水温が変化しやすいので、なるべく大きなものがよいようです。水道水を入れる場合は、しばらく置いて塩素をぬきましょう。
- ②水草…カナダモやホテイアオイがあります。メダカのかくれがになるほか、水をきれいにすることはたつきがあります。
- ③メダカの食べ物…自然の中では水の中の小さな生き物を食べています。水そうで飼うときは売っているえさなどをあたえます。ただし、やりすぎないようにしましょう。

前橋メダカをふやそう！

- ①オスとメスを入れておくと、4月くらいから、メスが水草に「たまご」をうみはじめます。「たまご」を見つけたら、水草ごと別の水そうに移します。そうし

ないとおとなのメダカに食べられてしまうからです。

- ②10日くらいで、「たまご」から赤ちゃんがうまれます。

えさは、売っているメダカの赤ちゃん用のえさか、ふつうのメダカのえさをよくすりつぶして細かくしたものをあたえます。赤ちゃんはとても小さい(3ミリくらい)ので、大きいえさを食べることができません。

- ③1か月ほどたつと、からだは1センチくらいになります。さらに、おとなの半分くらいの大きさになったら、もとの水そうにもどせます。

- ④メダカが生きられるのは、長くて3年ほどです。その間、春から秋にかけて何回も「たまご」をうみます。

…「たまご」をうみやすくするには…

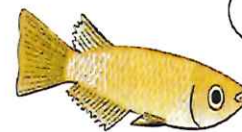
○水そうは明るく、あたたかいところに置く。

○水温は20～25℃がよい。

前橋メダカがふえたら…

メダカはその地域ごとに持っている性質(遺伝子といいます)が少しずつ違うそうです。もし、前橋のメダカを川に放してしまうと、前からすんでいたメダカと前橋のメダカの性質が混ざってしまい、昔からすんでいたメダカがいなくなってしまうことになります。そのほかの飼っていた生きものを逃がすことも、同じような考えで、やめた方がよいことになります。

もし、前橋メダカをふやしていただいたら、それをまた別の方に育ててもらいますので、児童文化センターにぜひ連絡してください。



ぼくたちをふやしてね！

○「野メダカを育てる会」では、貴重な前橋メダカをふやす活動をしています。興味がある方はぜひお問い合わせください。

連絡先：前橋市児童文化センター 027-224-2548